

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

なし

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):金間大介・金沢大学融合研究域融合科学系・教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):なし

研究課題名:アントレプレナーシップ・モチベーション構造の解明

研究期間:2018年12月1日～2020年11月30日

概要:(1,000字以内で記述)

(書籍)

金間大介(単著)「イノベーションの動機づけ:アントレプレナーシップとチャレンジ精神の源」丸善出版 2020年9月

本書の学術的貢献は次の3点である。

第一に、本書はイノベーションの源泉たる人の気質に強い焦点を当て、その解明を試みた成果である。イノベーション創出をめぐる環境や政策、戦略については議論が進む一方、イノベーター個人の内面に着目した研究は依然として少なく、特に若手や将来のイノベーター予備軍と言える大学生・院生の意欲、世代差による考え方の違いなどに関してはまだまだ議論が乏しい。

第二に、イノベーションを創出する際の阻害要因を、第一の点と同様に人の内面から明らかにした。イノベーション研究では、成功した事例を対象とした研究は比較的容易な反面、途中で断念したケースや、意欲を持ちながらも行動に起こさなかったケースを捉えることは容易ではない。本研究では、このような例も対象に定め、潜在的な阻害要因の把握を試みた。

第三に、アントレプレナーシップを醸成する仕組みや人材育成のあり方にも着目し、効果の検証を行った。2000年代以降、大学院を中心に多様なアントレプレナーシップ教育プログラムが開講されてきた。本書では、この現場と研究の双方の視点から日本におけるイノベーション人材育成のあり方を俯瞰的に捉え、より効果的な方策に関するインプリケーションを示した。

(査読付論文)

金間大介「年齢と創造性の関係:企業における「アイデアボックス」を活用した実証分析」日本知財学会 17(3), 66. 2021年4月

日本を含めた多くの先進国において労働者の平均年齢は上昇している。経営者は、従業員の高齢化が自社の創造性やイノベーション創出力を低下させることを懸念している。そのため、年齢と創造性の関係の解明は経営学においても大きな課題となっている。そこで本研究では、研究開発等の活動に従事する従業員の年齢と創造性の関係について、日本の一製造業の協力のもと、同社内のネットワークに設置されたアイデア投函の仕組みを利用し実証分析を行ったその結果、次の2点が導かれた。第一に、若手は年配者に比べ数多くのアイデアを創出する傾向にあることが示唆された。第二に、年齢を重ねるほど有用性の高い創造性を発揮する可能性が高くなることが明らかになった。

\* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します